

春

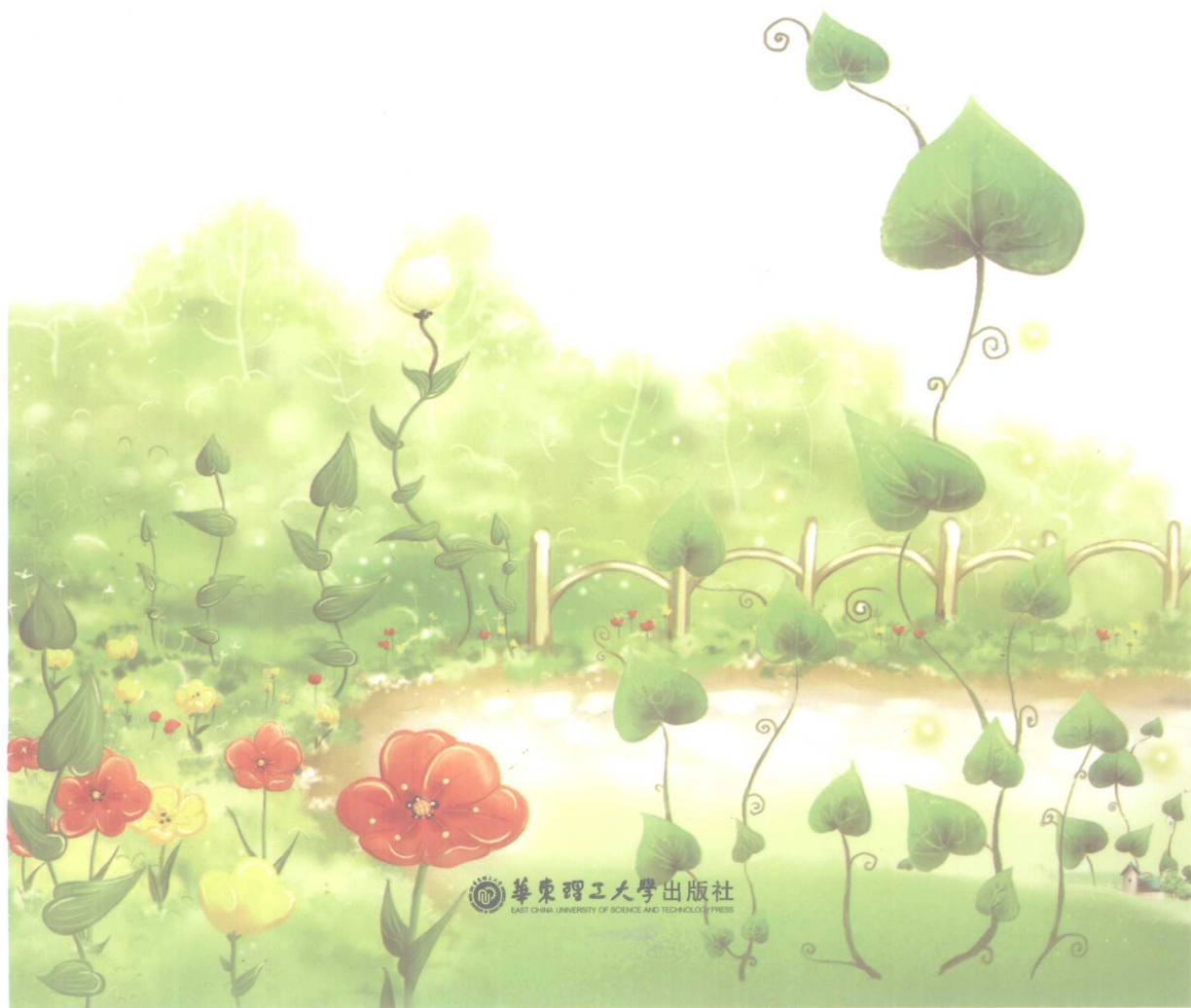
中日双语  读物

之物语。

主编 / 王秀文 编著 / 秦 颖 王秀文



附送MP3光盘



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

春之物語。

主編／王秀文 編著／秦 穎 王秀文



附送MP3光盘



華東理工大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

春之物语(附送 MP3 光盘)/王秀文主编;秦颖,王秀文编著. —上海:华东理工大学出版社,2009.8

(中日双语心灵读物)

ISBN 978-7-5628-2536-4

I. 春... II. ①王...②秦...③王... III. ①日语-汉语-对照读物 ②散文-作品集-世界 IV. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 052356 号

中日双语心灵读物

春之物语(附送 MP3 光盘)

主 编 / 王秀文

编 著 / 秦 颖 王秀文

责任编辑 / 苏 靖

责任校对 / 金慧娟

装帧设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021)64250306(营销部)

(021)64250787(编辑室)

传 真:(021)64252707

网 址:www.hdlgpress.com.cn

印 刷 / 江苏句容市排印厂

开 本 / 710mm×1000mm 1/16

印 张 / 10

字 数 / 125 千字

版 次 / 2009 年 8 月第 1 版

印 次 / 2009 年 8 月第 1 次

印 数 / 1—6000 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2536-4/H·825

定 价 / 22.00 元(附送 MP3 光盘)

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

编写说明

本套《中日双语心灵读物》以春夏秋冬四季为主题,采用中日文对照的方式,向读者全方位地展示日本的社会及文化习俗。全套丛书由大连民族学院日语系的数名教师编写而成。其编写目的是想让读者感受原汁原味的日语,增强语感,扩大日语词汇量,熟悉更多的日语表达方式,同时也帮助读者更多地了解日本社会、文化知识,提高中日跨文化沟通的能力。

笔者在编写过程中注意了以下几点:

一、关于文章的选择。本系列读物的文章均选自日本刊物或日文网站。在选材时充分注意了文章体裁、题材的多样性,注意了文章内容的知识性、可读性和趣味性,同时还注意了语言的规范性、文章的长度和难易程度。就一些过长和内容略有不妥的文章,在不影响整体内容、结构的前提下略作了压缩和删减,并在文章的末尾注明了文章的出处。

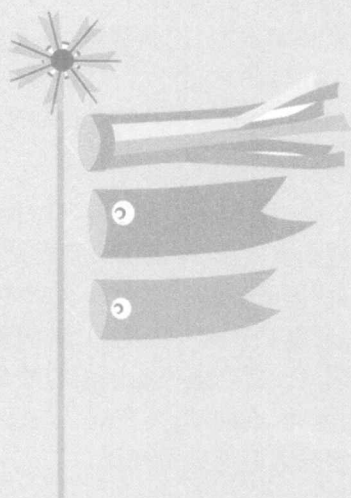
二、关于读物的编写。首先是“振假名”(即标读音),在原文文章中适当地标注了“振假名”以方便读者阅读,标注的原则是选择难读词语、不常见词语和容易读错的词语。其次是“词语解释”,在原文文章中适当地选择部分词汇进行注音和解释,词汇的选择原则是挑选一些生词、难词和多义词等。解释时原则上只注明该词在文章中的词义或适当地说明该词的社会、文化背景,以帮助理解。然而,有些汉字词汇虽为生词、难词,但是在词义与汉字基本一致的情况下,即中国人见其词可解其意的情况下不再另做解释。

三、关于参考译文。每篇文章后均附中文译文供读者阅读时参考。中文译文的翻译以直译为原则,即力求逐词逐句反映原文的含义,而基本上没有进行文饰。因此,有些翻译从汉语角度看可能不够华美和流畅,这是由于翻译的原则不同而产生的,请予理解。

在此系列读物出版之际,首先谨向相关文章的作者表示诚挚的感谢,是他们为我们提供了体验日语和感受日本的美文;其次向华东理工大学出版社的编辑表示感谢,是他们的创意为读者提供了日语学习的园地。随书附送的 MP3 光盘也将此书变成了有声读物。本套丛书在编写、翻译过程中难免存在一些问题,欢迎广大读者批评、指正。

本书主编

2009.6



目次

1	❶ 春 春
5	❷ 緑と青の自然 绿与蓝的大自然
10	❸ 春めく 有春意
16	❹ 北国の春 北国之春
20	❺ 田植 插秧
26	❻ 桃のはなし 桃的故事
32	❼ 春晓 春晓 0
36	❽ 母の日へのプレゼント 母亲节的礼物
44	❾ 植林の小さな巨人 植树造林的小巨人
49	❿ たんぽぽの知恵 蒲公英的智慧
52	⓫ ひな祭の源流 偶人节的起源
57	⓫ 雛祭 偶人节

目次

63	⑬ 雨傘 雨傘
68	⑭ 桜の木の話 櫻花樹的故事
73	⑮ さくら 櫻花
78	⑯ 不義理の日 愚人節
82	⑰ 清明節に春を想う 清明節思春
88	⑱ 天長節 天皇誕生紀念日
92	⑲ メーデーの移り変わり “五一”國際勞動節的變遷
96	⑳ 燕の害虫退治 燕子消滅害虫
100	㉑ 鯉のぼり 鯉魚旗
105	㉒ 春の庭 春天的庭院
111	㉓ 春の子もり歌 春天的搖籃曲
115	㉔ お袋さんへ 寫給媽媽的信

目次

120	②5 青春とは 何谓青春
124	②6 春の断想 春日断想
129	②7 春の歩み 春天的脚步
134	②8 兎 兔子
139	②9 加代の四季 加代的四季
146	③0 人混みを嫌う 不喜欢人群

1. 春

春の語源は、草や木の芽が吹き出し、伸びることを意味する「張る」、あるいは、万物が発生するという意味の「発」と言われている。

暦の上では、立春(2月3、4日頃)から立夏(5月5、6日頃)の前日までが春である。しかし、人々が実際に春を感じるのは、少し後になり、一般に3、4、5月の3ヶ月が「春」。春の初めごろを早春、終わり頃を晩春という。

昼間の時間が夜より長くなりだんだん暖くなるのを感じる。草木は芽生え、花をつけ、虫などは冬眠から覚める。春は穏やかな日が多いが、「春に3日の晴れなし」と言われるように、気候は意外に変わりやすい。

春は卒業と入学という大きな学校行事がある季節である。日本では、小学校(6年間)、中学校(3年間)、高等学校(3年間)、大学(2~4年間)の学校が始まるのは4月。それぞれの教育課程を終えた児童、生徒、学生の卒業式は3月に行われる。入学式は大体4月上旬。学校での出会いと別れは、人の一生の中で大きな意味を持っている。

日本で春を代表する花は桜である。最もよく知られているのは、「染井吉野」という品種だ。長い冬が終わり、春になって美しく咲き誇る桜は、多くの

日本人に好まれている。最も南の沖縄県では2月に咲き始める。その後、3月から5月上旬にかけて、九州から北の北海道に向かって次々に開花する。桜が南から北へ順番に咲いていくことを「桜前線が北上する」という。桜の開花時期には、家族、職場の仲間、友人達が公園などで、桜の木の下にピニールやカーペットなどの敷物を敷いて、お酒を飲んだり、ご馳走を食べて、カラオケで歌って踊ったりして、にぎやかに楽しい一時を過ごす。これが、日本人が大好きな「お花見」と言って、春の風物詩になっている。

3月は弥生、4月は卯月、5月は皐月という旧暦の別の呼び名がある。弥生は、「ますます」、「いよいよ」、「いちばん」を意味する副詞「弥」を使った「いよいよ生い茂る」という「草木が弥生茂る」が詰まって「やよい」となった、と言われている。卯月は、「卯の花月」の略。卯の花は初夏の頃に花を咲かせる空木の花のこと。皐月は早月とも書く。稲の早苗を植える月という意味の早苗月が略されて「さつき」と言われるようになった。

(大森和夫 『日本』による)

● 温馨词汇

吹き出し[ふきだし]

冒出

芽生える[めばえる]

出芽, 发芽

穏やか[おだやか]

温和, 恬静

高等学校[こうとうがっこう]

高中

生徒[せいと]

学生(特指初中、高中的学生)

出合い[であい]

相遇, 相逢

染井吉野〔そめいよしの〕	染井吉野櫻(日本各地最为普遍的櫻花)
咲き誇る〔さきほこる〕	盛开
桜前線〔さくらぜんせん〕	櫻花(由南向北)开放的前锋
仲間〔なかま〕	伙伴,同类
カーペット	地毯
敷物〔しきもの〕	铺的东西
敷く〔しく〕	铺
一時〔ひととき〕	片刻,暂时
花見〔はなみ〕	赏櫻花
風物詩〔ふうぶつし〕	风景诗,景物
生い茂る〔おいしげる〕	繁茂,茂盛,丛生
詰まる〔つまる〕	缩短
卯の花〔うのはな〕	水晶花
空木〔うつぎ〕	水晶花
早苗〔さなえ〕	秧苗,稻秧

● 美丽译文

春

据说“春”的词源来自意味着草木发芽、伸展之意的“張る”或意味着万物发生之意的“発”。

在日历上,从立春(2月3、4日)到立夏(5月5、6日)的前一天是春天,但是人们实际感受到的春天要稍晚一些,一般3月、4月、5月这三个月是春天。春天开始时被称为早春,临近结束时被称为晚春。

白天时间比夜晚长,感觉渐暖。草木发芽、开花,虫类从冬眠中苏醒。春天温和的日子居多,但气候格外地易变,人称“春无3日晴”。

春天是学校举行毕业、入学等大型活动的季节。日本的小学(6年制)、中学(3年制)、高中(3年制)、大学(2—4年制)都在4月开学,而结束各自教育课程的儿童、中小学生、大学生的毕业典礼在3月举行,开学典礼在4月上旬举行。在人的一生之中,在学校的相逢和离别具有重要的意义。

在日本,樱花代表春天。最广为人知的品种是“染井吉野樱”。在漫长的冬天结束、春天来临时,漂亮的樱花盛开,受到众多日本人的喜爱。樱花在2月从最南端的冲绳县开始开放,之后在3月到5月上旬从九州向北方的北海道渐次开放。樱花由南向北依次开放的现象被称为“樱花前锋北上”。在樱花开放的季节,家人、工作单位的同事、朋友们来到公园等处,在樱花树下铺上塑料布或地毯等,喝酒、品美食、唱歌跳舞,度过热闹而愉快的时光,这就是日本人喜欢的“赏樱”,是春天的景物。

按照日本农历的说法,3月是弥生,4月是卯月,5月是皋月。据说,弥生是使用了表示“越发”、“益发”、“最”等意思的副词“弥”,缩短“草木弥生茂”的“益发繁茂”之意而成“弥生”的。卯月是“卯花之月”的简称。卯花即为初夏时节开花的水晶花。皋月也写做早月,是表示水稻插秧之月的“早苗月”被简化而成为皋月的。

2. 緑と青の自然

日本人のだれかに「自然の色は何色？」とたずねてみてごらん下さい。どんな答えが返ってくるとおもいますか。世界各国の人にこの質問をしてみると面白いと思うのですが、日本人の場合一番多い答えは「緑」、続いて多いのは「青」だそうです。

緑という色は、木や草の色です。「自然の色は？」と問われて、日本人の多くが「緑」と答えるのは、日本人が植物の多いことを自然の姿としてとらえていることによるとおもわれます。同時に、日本の国土が緑の植物に覆われていることを物語っているといっていいいでしょう。事実日本列島は、温帯特有の適度な日照と降雨に恵まれて、植物の成育に適しています。ですから、日本人は昔から、衣食住の材料を植物に頼ってきたのです。

まず衣服は、長い間麻や木綿といった植物繊維が主な材料でした。次に食品ですが、これも昔から植物性のものが主流を占めてきました。ご存じのように、現在でも米、味噌、しょうゆなどは欠かせない物です。長い間米や麦や豆などをつくる農耕が、日本人の暮らしの中心になってきたということも当然のことでしょう。では、住居はどうでしょう。本来、日本建築は、戸外

と屋内の区別がきわめてあいまいでした。むろん、外部とは壁で仕切ってはありますが、ふすまや障子や開け放してしまえば、家の内と外の区別はほとんどなくなってしまいます。このことは、家の内から庭の草木を眺め、虫や鳥の声に耳を澄ますというように、絶えず身辺に自然を置いて自然と親しんでいたいという願いが、住居の形に表れたものなのです。西洋建築が、壁で四方を囲んで、外界から完全に遮断した、人間だけの城を造っているのと対照的です。

では、自然の色は青と答えた人たちは、何を思い浮かべたのでしょうか。きっと晴れ渡った日本の大空の青さ、海の色、水の清さ、豊かさを思ったにちがいありません。

水といえば、風景の美を表すのに「山紫水明」という言葉がしばしば登場します。「水明」は文字通りですが、「山紫」というのはどういうことでしょうか。先にも触れましたが、日本の山野は緑に覆われていました。その緑の山が紫の山に見えるというのですから、それには訳があるのです。それは「かすみ」のいたずらです。日本の国土は湿りが多いです。ですから空気中の湿気がパールのような動きをして、鮮明な緑の山をくすんだ紫色に変えてしまうというわけです。つまり、日本の自然は、強烈な原色のときよりも中間色のときの方が多いということになります。

言うまでもありませんが、水と植物は、人間の生命に欠くことのできないものです。水と植物を人間の生きるための大切な資源と見たとき、この二つの資源が豊富であるということが、日本列島は人間の暮らしにまことに恵まれた土地であるということを教えてくれます。その上に、中間色に和らげ



られた自然の風物が人間を取り巻いているのですから、日本人はずいぶん
自然に恵まれた民族だと言えますでしょう。

(季林根 『新編日语阅读文选2』による)

● 温馨词汇

たずねる	问, 询问
とらえる	掌握, 抓住
物語る[ものがたる]	说明
恵まれる[めぐまれる]	赋予, 富有
きわめて	极其, 非常
あいまい	含糊, 不明确
仕切る[しきる]	隔开, 间隔开
ふすま	双面糊有纸或布的隔扇
障子[しょうじ]	拉窗, 拉门
耳を澄ます[みみをすます]	倾听, 聆听
晴れ渡る[はれわたる]	(天空完全)放晴, 晴彻
文字通り[もじどおり]	如字面所示
訳[わけ]	理由, 原因
かすみ	雾霭
いたずら	恶作剧, 玩笑

湿り[しめり]

湿润,潮湿

ベール

面纱

くすむ

不鲜艳,暗淡

和らげる[やわらげる]

使柔和

取り巻く[とりまく]

围,围绕

● 美丽译文

绿与蓝的大自然

可以试问一下日本人“大自然是什么颜色”,看看他们怎么回答。我想,向世界各国的人询问这个问题一定会很有意思。据说日本人中最多的回答是“绿色”,其次是“蓝色”。

绿色是树木和草的颜色。当被问到“自然的颜色”时,大多数日本人回答“绿色”,这是因为日本人把植物多作为自然形态来看待。同时也可以说明日本的国土是被绿色植物所覆盖着的。事实上,日本列岛享有温带特有的适度的日照和降雨,适合植物生长。因此自古以来,日本人的衣、食、住的原料都依赖植物。

首先是衣服,长久以来麻和棉等植物纤维是其主要原料。其次是食品,从古至今也是植物性的占据主流。众所周知,大米、酱、酱油等在今天仍是不可缺少的东西。因此,长期以来,生产大米、麦子、豆类等农作物的农耕成为日本人生活的中心也是理所当然的。那么,居住又怎样呢?本来,日本建筑的户外与屋内区别是极为模糊的。当然,户内与户外是有墙壁隔开的,但如果打开隔扇或拉门,室内外



几乎就没有区别了。这样，从室内观看庭院中的草木、倾听虫鸣鸟啼，即经常将自然置于身边、亲近自然的愿望便表现在住宅的形式上了。这与西方建筑四周是墙壁、与外界完全隔绝、只造出人居住的城堡形成鲜明对照。

那么，回答自然的颜色是蓝色的人们又想到了什么呢？一定是想到了晴空万里的日本天空的蓝、大海的蓝和水的清澈、丰富。

说到水，为表达风景之美，常常使用“山紫水明”这个词。“水明”意思如字面所示，那么“山紫”指的是什么呢？前面已经写到，日本的山野为绿色所覆盖，而那绿色的山看上去是紫色的。这是有原因的，是雾霭搞的鬼。日本的国土湿气大，空气中的湿气如面纱一样飘动，因此将清晰的绿山变成了暗淡的紫色。就是说，日本的自然中间色的时候比强烈的原色时候多。

不用说，水和植物对于人的生命是不可缺少的。当我们把水和植物视为人类生存的重要资源时，这两个资源的丰富便告诉我们，日本列岛是非常适合人类生活的土地。另外，柔和的中间色的自然风物环绕着人，因此可以说，日本人是极其受大自然恩惠的民族。